



平泉・小笠原、世界遺産に

ユネスコ登録見通し



世界遺産に登録される見通しとなった「平泉」にある
中尊寺金色堂。2日、岩手県平泉町、恒成利幸撮影

文化遺産「平泉」（岩手県）と、自然遺産「小笠原諸島」（東京都）が、いずれもユネスコの世界遺産に登録される見通しとなった。最終的に登録を決めるユネスコの世界遺産委員会は、6月19日からパリで開かれる。

ユネスコ世界遺産センター（パリ）は6日（現地時間）、登録の妥当性を「登録」「情報照会」「登録延期」「不登録」の4段階で評価する諮問機関からの勧告内容を日本政府に伝えた。文化庁、環境省によると、「平

泉」「小笠原諸島」への勧告はいずれも「登録」だった。

一方、日本政府がフランスなどと共同推薦した東京・上野の国立西洋美術館本館を含む建築家ル・コルビュジエ（1887～1965）の「建築作品」は、勧告そのものが6日に間に合わず、後日通知されることになった。

世界遺産は日本国内では文化11件、自然3件の計14件が登録されている。